

# 平成30年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

## 「学習指導の改善を図る研修会」

### 第13回、第14回研修会

(2月12日・13日)

- 場所 中津山第二小学校
- 講師 広島大学大学院教育学研究科  
教育学部教授 栗原 慎二 先生

#### ☆研修内容

- 12日午前：ピア・サポート応用編（プランニング・マネジメント）
- 午後：実践発表（中津山二小）  
SEL 応用編
- 13日午前：プログラムマネジメント
- 午後：実践発表（桃生中）  
アセス事例検討・演習

#### 〈受講者の声〉

- ◇ SEL では、時間の確保が難しいことや教職員間の理解・意識の温度差がある等の課題を共有し、考えることができた。SEL の汎化のために、詳しい先生と TT を組んでやることや、汎化する場を想定して計画をつくる等は自校にも生かしていきたいと思う。
- ◇ グループワークでは話し合う視点をいただき、視点を解決するための話し合いがやりやすかった。他校の取り組みも大変参考となった。

寒い中の研修となり、受講した先生方に御迷惑をお掛けました。また、会場校の中二小の先生方、ヒーターを貸与してくださった桃生中学校に感謝申し上げます。



◇ 「やらされる」ではなく、自校化して取り組んでいくことの大切さを痛感した。来年度から MLA 理論を校内研究ではっきり打ち出し、取り組んでいくことになっている。モデル校の実践を参考にしながら、少人数でもこんなことができるということを明らかにしていきたい。

◇ SEL とピア・サポートは一体で回ること、与えるのではなく、子ども達の必要感が鍵になること、リーダーは障壁を取り除く戦略と計画を求められていることなどを学ばせていただいた。

◇ 愛着形成の一番の条件は、「一緒にいる時間が長い」ということ。担任は一日の大半を子どもと過ごす。子どもに与える影響も大きく、愛着形成を担う。将来健やかな成長のためにもピア・サポートや SEL 等、正しく理解し、取り入れていきたい。発達障害は、愛着障害も併発しやすいということを知り、尚更、言葉を付けて接することの必要性を学んだ。



- ◇ 次年度計画の時期に、この研修でお話をいただいたことは、私の中でつながり、次年度のビジョンが明確になったように感じた。
- ◇ プログラムマネジメントについての話を聞き、本校の課題や今後の実践に向けての方針を考えることができた。来年度はリーダーとして MLA の推進に力を注いでいきたいと思う。
- ◇ アセス分析について、他の先生方に助言を与える役割は難しい。学校でもアドバイスを求められるが、それが適切なのかいつも不安である。事例研究は毎回参考になっており、本日も考えさせられる事例研究であった。次年度と今の生徒指導につなげたいと思う。
- ◇ 「アセス」の解釈のしかたをこれだけ演習したのは初めてだったので、とても勉強になった。一人で考えるよりもグループで考えることにより、他の先生の見立てに触れることができ、理解が深まった気がする。
- ◇ 管理職としてのリーダーシップ、果たす役割をしっかりと理解できた。今後も先生方の資質をより高められるよう役割を果たしていきたい。

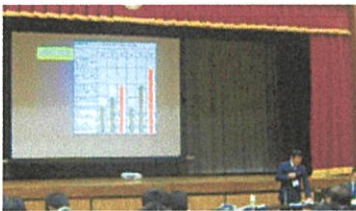
## 実践発表校へのメッセージ

グッジョブカードの取組でも、異学年交流や授業（学級）の中でなど、様々な場面で行っていらっしゃって、素晴らしいと思いました。協同学習において、目指す生徒像を意識して評価する手立てが参考になりました。

キラリカードの活用、グッジョブカードを価値と結びつけて振り返りをさせているところが素晴らしいと思いました。特に、家に持ち帰らせ、保護者からメッセージをもらうという点も良かったです。

グッジョブカードやキラリカードを価値や行動目標を結び付けて活用しているところがすばらしかったです。また、校内体制も整っており、手本にしたいと思いました。勉強になりました。

MLAの取組が具体的で分かりやすく、本校でもすぐ実践できることばかりでした！！数値からも子どもの変容が分かりました。それだけ先生方が一致団結し進めてきたことに、すばらしいなあと思いました。この実践を持ち帰ってできることから進めていきます。



きめ細かい計画のもと、実践をされていたので、自校で取り組む際に、どのように準備していけばよいかを知ることができました。

SELの動画を作成しようとするところがすごいと思いました。それを職員が協力して作り上げたところにチームワークの良さを感じました。



これまでも取り組んできた活動にピアやPBISをうまくとりこんでいくやり方を本校でも実践してみたいと思います。